

長崎
検定

一級
さん

Vol.45

恩師と長崎学

まっお
松尾
のりかず
震和
さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一言ありそうです。
ざっくばらんに寄稿願いました。

平成19年3月、私は、くんち踊町の復活に必要なノウハウを学ぶため長崎歴史文化協会（以下「協会」という。）の門を叩いた。

協会のお昼休みは独特の時間が流れる。皆さんが越中哲也理事長（以下「師」という。）を囲んで昼食をとりながら、長崎の歴史や時事を語り合うのである。協会の事務室がいわば長崎学のサロンのように変わるのだ。時事に引掛けて師が歴史と結び付けて話をされる、皆さんはこれに耳を傾ける、とっておきの長崎学が流れていくサロンに変わるのである。私は時間を見つけては協会に通い、長崎学を愛する多くの方々と出会うことができた。

師とは一緒に日本酒を楽しむ間柄にもなった。師の日本酒のアテは「豆腐」のみ。90歳を超えた古老の飲みっぷりは年季がはいっている。師が長崎学の大家であることは勿論のことであるが、それ以上に、人としての奥行き、深みに私は憧れていた。

師がお若いころの遊び方は、凄いの一言に尽き

る。散財と申しますか・古賀十二郎先生も然り、歴史の大家はいずれも今の若い人たちには真似できない遊び方を知っておられる。100年近く生きてきた師の人生史には今の私たちには真似できない貴重な経験が山のように詰まっていた。長崎学だけではなく人生哲学という意味で多くのことを学ばせていただいた。

そのような中、平成31年3月末をもって協会が解散されることになり、今の自分にできることは何かないか、師の最後の花道に何かできないか・と考えた。ふと師が長崎検定の作問委員会に携わっていたことを思い出し、協会の中から1級合格者が出ていないことを知り「これだ！」と思った。受験まで残り3カ月余り、とにかくやってみてみたが、6点不足の不合格。師は「合格する者もいれば落ちる者もいる。それでいいじゃないですか・また頑張りなさい」と仰られた。この言葉が私の心に再び火をつけてくださった。

思えば、長崎歴史文化協会の門を叩いていな

れば私は長崎学の魅力に引き込まれることはなく、まして長崎検定1級を受験することはなかった。

サロンや受験勉強での様々な疑問を師に質問した。師は市史や専門書には載っていないことを沢山教えてくださった。これは私のとっておきの長崎学として頭の中に保管しておきたい。もうすぐ真夏を迎える頃、師はお祝い会を開いてくださった。自分史のなかで最も思い出深い宴になった。これらの貴重な経験ができたのは長崎検定のおかげに他ならない。長崎検定に携われた全ての皆様へ深く感謝申し上げます。



【プロフィール】
1969年長崎市生まれ
ワイン、ラグビーそしてくちを愛する長崎市役所職員
日本ソムリエ協会WE認定資格
宅地建物取引士、長崎さくらガイド